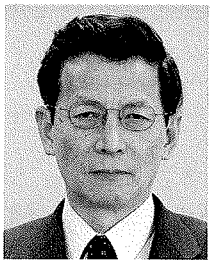

巻頭言

食品安全委員会のホームページは楽しい

（財）日本植物調節剤研究協会　理事
日本農薬（株）取締役兼常務執行役員　研究開発本部長　濵口　洋

元々ケミストの端くれであった小職が本社に転勤して開発関係の仕事をするようになって11年になろうとしている。この間農薬の規制は厳しくなる一方である。食の安全，安心を求める声を背景にして当然の事かもしれない。食品安全委員会の第一回目の会合は平成15年7月1日，農薬専門調査会の第一回目の会合は10月２７日に開催された。今年は食品安全委員会及びその農薬専門調査会のいずれもが５周年となる。農薬会社に糧を得ている私にとっては，食品安全委員会ホームページでの農薬専門調査会が最大の関心であるのは間違いない。各メーカーの新旧の剤がどんな評価を受けるのか？議事録はどうなっているのか？興味は尽きない。餃子問題で話題となったメタミドホスも，日本では農薬ではない単なる化学物質であるが，全世界の安全性データを集め緊急に評価して，ADIを設定した事は最近の最もホットな出来事である。

本年５月１日の236回食品安全委員会の資料として，「残留農薬の暴露評価について」を見つけた。食品安全委員会の委員の要望により，資料を提出したとの事のようだが，ADIを設定する食品安全委員会の委員が，関連するTMDI（理論最大摂取量）とEDI（推定一日摂取量）を説明して欲しいとの要望を出したものと思われる。ハザードの指標としてADIと暴露量の計算根拠である作物残留が農薬の安全性の基本であるが，前者のTMDIが最大暴露量であって，実際の暴露量はEDIが妥当と読める。この資料が委員会に出された事を知った時，正直食品安全委員会の委員の方々も勉強家であると心から喜んだ次第である。

農薬以外の話題ではトランス脂肪酸や，アクリルアミド，マグロ中の水銀，作物での砒素等の人への影響等，読み物として楽しいし正直な話，この種の話はどこまで続くのか？農薬会社以外の関係者の方々も，分野分野で最大の関心を持って見ておられるのだと想像している。キッズ向けや，主婦向けの啓蒙資料の作成，そして何よりも世界中の最新の科学を集めて，分析し，評価される食品安全委員会関係者に敬意を表する。

全く話題は変わるが，岩波新書により４月22日に発刊された「疑似科学入門」池内了著を暇な際に読まれる事をお奨めする。科学を標榜しながら，商売や，自説を通す危険な流れに警鐘を鳴らす好著と思う。占いや，イオン水など身の回りの話も含めて，科学の雰囲気を漂わすある種のいかがわしさに危機感をもたれたようだ。全員が参加したかの如き観を持たせる「劇場化」と「観客民主主義」にも言及されている。

農薬業界に携わる者として，今後も最新の科学を取り入れ，消費者に安心頂くように配慮する必要があると感じると同時に，上記のような目新しいEDIの概念も咀嚼し，対話できるようになりたいと思っている。